

# 1 章 舗装工

- 1.1 不陸整正
- 1.2 路盤工
- 1.3 アスファルト舗装工
- 1.4 半たわみ性（コンポジット）舗装工
- 1.5 コンクリート舗装工
- 1.6 転圧コンクリート舗装工
- 1.7 連続鉄筋コンクリート舗装工
- 1.8 排水性アスファルト舗装工
- 1.9 透水性アスファルト舗装工
- 1.10 グースアスファルト舗装工
- 1.11 薄層カラー舗装工
- 1.12 橋面防水工
- 1.13 踏掛版工

# 1章 舗装工

## 1.1 不陸整正

### 1. 適用

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の不陸整正に適用する。

### 2. 数量算出項目

路床及び路盤の不陸整正の面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、補足材料の有無、補足材料平均厚さ、補足材料の規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	補足材料の有無	補足材料平均厚さ	補足材料の規格	単位	数量	備考
不陸整正	○	○	○	m <sup>2</sup>		
不陸整正 (ICT)	○	○	○	m <sup>2</sup>		

(2) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに3次元設計データ若しくは不陸整正の3次元計測データがある場合における補修材の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。

平均厚さ = 体積 / 面積

体積については、3次元CADソフト等を用いた場合、以下の方式によることを標準とする。

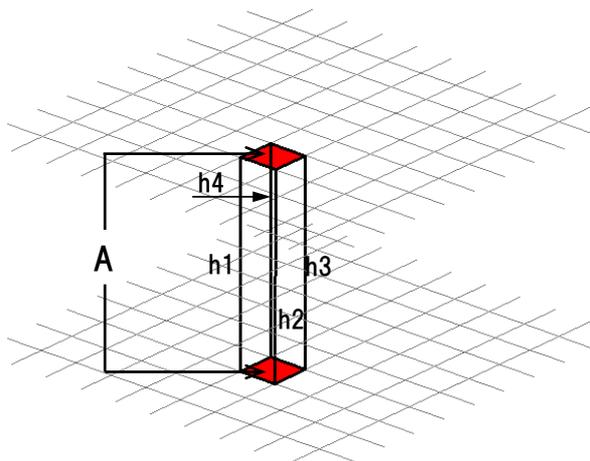
3次元CADソフト等を用いた a)～c) の方式

数量算出に用いる3次元点群座標データは、50cm間隔以下の点密度とする。ただし、植生等により測定した点が正しく地表を捉えられず、標準の点密度の取得が困難な場合には、この限りでない。

#### a) 点高法

現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からなる2つの面データに重ね合わせたメッシュ（等間隔）交点で標高を算出し、標高差にメッシュ間隔の面積を乗じたものを総和する。メッシュ間隔は50cm以内とし、標高差の算出には、以下の方法とする。

- ・ 4点平均法：メッシュ交点の四隅の標高差を平均する方法（下図のとおり）
- ・ 1点法：メッシュ交点にて標高差を算出する方法



$$V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3 + h4)}{4}$$

b) TIN分割等を用いて求積する方法

現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からそれぞれの面データとしてTINからなる面データを作成したうえで、ある一定の標高値にてDL面（標高基準面）を設定し、各TINの水平投影面積と、TINを構成する各点からDL面までの高低差の平均（平均高低差）を乗じた体積を総和する。

なお、TINとは Triangular Irregular Network の略。TINは、標高データを補間する最も一般的なデジタルデータ構造である。TINは、多くの点を3次元上の直線で繋いで三角形の頂点の組合せで面（サーフェス）を形成する。

**A：サーフェスを構成するTINの水平面積**

**h1～h3：Tinを構成する各点からDL面までの高低差**

**DL面：体積計算を行なうための基準となる標高面**

$$V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3)}{3}$$

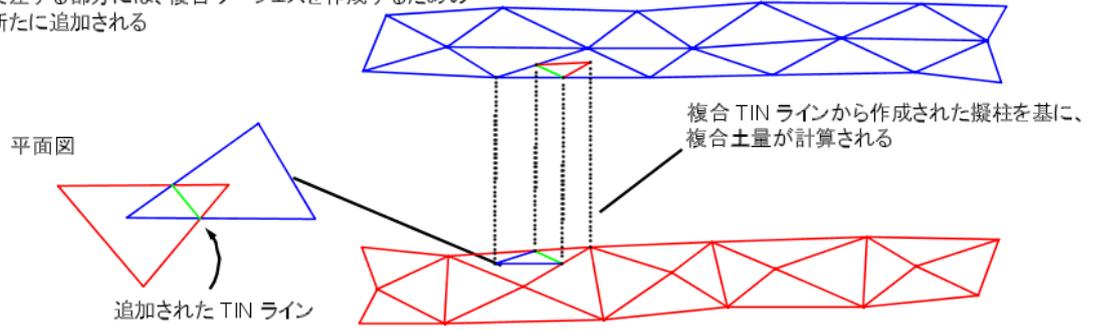
▽ DL面（標高基準面）：DL=○○. ○○m

c) プリズモイダル法

現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からそれぞれの面データとしてTINからなる面データを作成し、面データのポイントの位置を互いの面データに投影する。次に各面データから、本来の自身が持つポイントと相手のポイントを合わせたポイント位置により新たな三角網を形成し、この三角網の結節点の位置での標高差に基づき複合した面データの標高を計算する。面データの各TINを構成する点をそれぞれの面データに投影すると、各面データに同じ水平位置で標高の異なる点を作成されるので、その作成された点で再度面データを構築し、三角形水平面積と高低差を乗じた体積を総和する。

上部サーフェスおよび下部サーフェスの TIN エッジを組み合わせて  
複合サーフェスが作成される

TIN ラインが交差する部分には、複合サーフェスを作成するための  
TIN ラインが新たに追加される



d) その他算出結果について結果を確認できるもの

## 1.2 路盤工

### 1. 適用

アスファルト舗装及びコンクリート舗装工事の路盤工（瀝青安定処理路盤を含む）に適用する。

### 2. 数量算出項目

下層路盤、上層路盤の面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、平均厚さ、規格、平均幅員、瀝青材料種類・締固め後密度とする。

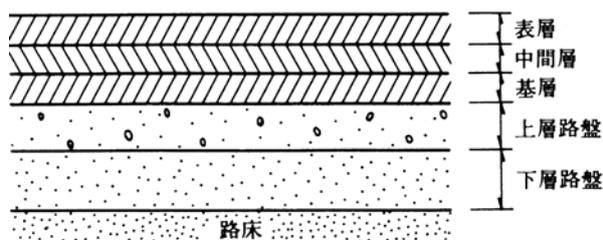
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	平均厚さ (mm)	規格 (材料)	平均幅員	瀝青材料種類・締固め後密度	単位	数量	備考
下層路盤（車道・路肩部）		○	○	—	—	m <sup>2</sup>		
下層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	—	—	m <sup>2</sup>		
下層路盤（歩道部）		○	○	—	—	m <sup>2</sup>		
上層路盤（車道・路肩部）		○	○	○	○	m <sup>2</sup>		
上層路盤（車道・路肩部） （ICT）		○	○	○	—	m <sup>2</sup>		
上層路盤（歩道部）		○	○	—	—	m <sup>2</sup>		

### (2) 平均厚さ区分及び規格区分

路盤の平均厚さ及び材料の規格（粒調碎石40～0、クラッシュラン40～0等）ごとに区分して算出する。

(アスファルト舗装の構成例)



項目	材料	平均厚さ区分
下層路盤 (車道・路肩部)  及び 下層路盤 (車道・路肩部) (I C T)	—	75mm 以上 125mm 以下
		125mm 超 175mm 以下
		175mm 超 200mm 以下
		200mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 400mm 以下
		400mm 超 425mm 以下
		425mm 超 475mm 以下
		475mm 超 525mm 以下
		525mm 超 575mm 以下
		575mm 超 600mm 以下
		600mm 超 625mm 以下
		625mm 超 675mm 以下
		675mm 超 725mm 以下
		725mm 超 775mm 以下
		775mm 超 800mm 以下
		800mm 超 825mm 以下
		825mm 超 875mm 以下
875mm 超 925mm 以下		
925mm 超 975mm 以下		
975mm 超 1000mm 以下		
1000mm 超 1025mm 以下		
1025mm 超 1075mm 以下		
1075mm 超 1125mm 以下		
下層路盤 (歩道部)	—	25mm 以上 75mm 以下
		75mm 超 125mm 以下
		125mm 超 175mm 以下
		175mm 超 200mm 以下
		200mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 400mm 以下
		400mm 超 425mm 以下
		425mm 超 475mm 以下
475mm 超 525mm 以下		
上層路盤 (車道・路肩部)  及び 上層路盤 (車道・路肩部) (I C T)	瀝青安定処理材 (25) 瀝青安定処理材 (30) 瀝青安定処理材 (40) 再生瀝青安定処理材 (40) 路盤材 (各種)	45mm 以上 55mm 以下
		55mm 超 65mm 以下
		65mm 超 75mm 以下
		75mm 超 85mm 以下
		85mm 超 95mm 以下
		95mm 超 100mm 以下
		25mm 以上 75mm 以下
	75mm 超 125mm 以下	
	125mm 超 150mm 以下	
	150mm 超 175mm 以下	
	175mm 超 225mm 以下	
	225mm 超 275mm 以下	
	275mm 超 300mm 以下	
	300mm 超 325mm 以下	
325mm 超 375mm 以下		
375mm 超 425mm 以下		
425mm 超 450mm 以下		
上層路盤 (歩道部)	—	75mm 以上 125mm 以下
		125mm 超 150mm 以下
		150mm 超 175mm 以下

		175mm 超 225mm 以下
		225mm 超 275mm 以下
		275mm 超 300mm 以下
		300mm 超 325mm 以下
		325mm 超 375mm 以下
		375mm 超 425mm 以下

(3) 平均幅員区分

- ① 1. 4 m未満
- ② 1. 4 m以上

(4) 路床面又は路盤面の3次元計測データ並びに路盤面の3次元設計データがある場合における路盤の平均厚さの算出は、以下のとおりとする。

平均厚さ=体積/面積

体積については、3次元CADソフト等を用いた場合、以下の方式によることを標準とする。

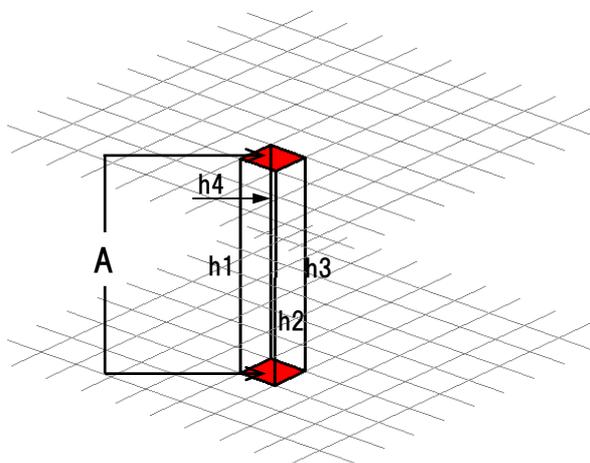
3次元CADソフト等を用いたa)~c)の方式

数量算出に用いる3次元点群座標データは、50cm間隔以下の点密度とする。ただし、植生等により測定した点が正しく地表を捉えられず、標準の点密度の取得が困難な場合には、この限りでない。

a) 点高法

現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からなる2つの面データに重ね合わせたメッシュ（等間隔）交点で標高を算出し、標高差にメッシュ間隔の面積を乗じたものを総和する。メッシュ間隔は50cm以内とし、標高差の算出には、以下の方法とする。

- ・ 4点平均法：メッシュ交点の四隅の標高差を平均する方法（下図のとおり）
- ・ 1点法：メッシュ交点にて標高差を算出する方法

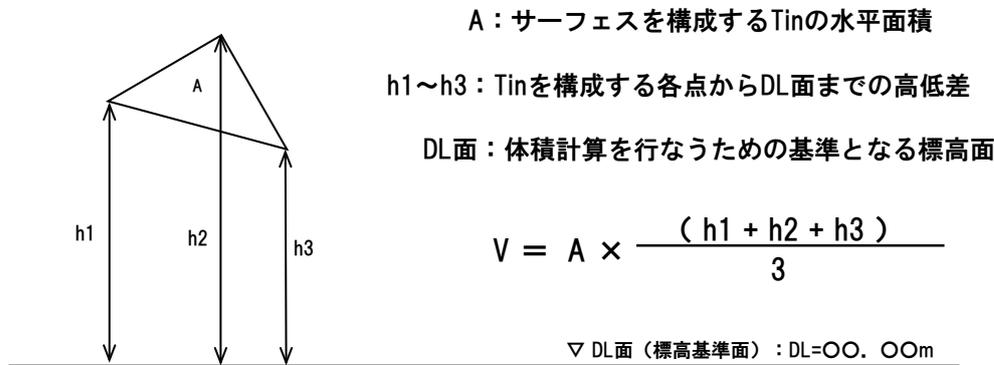


$$V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3 + h4)}{4}$$

b) TIN分割等を用いて求積する方法

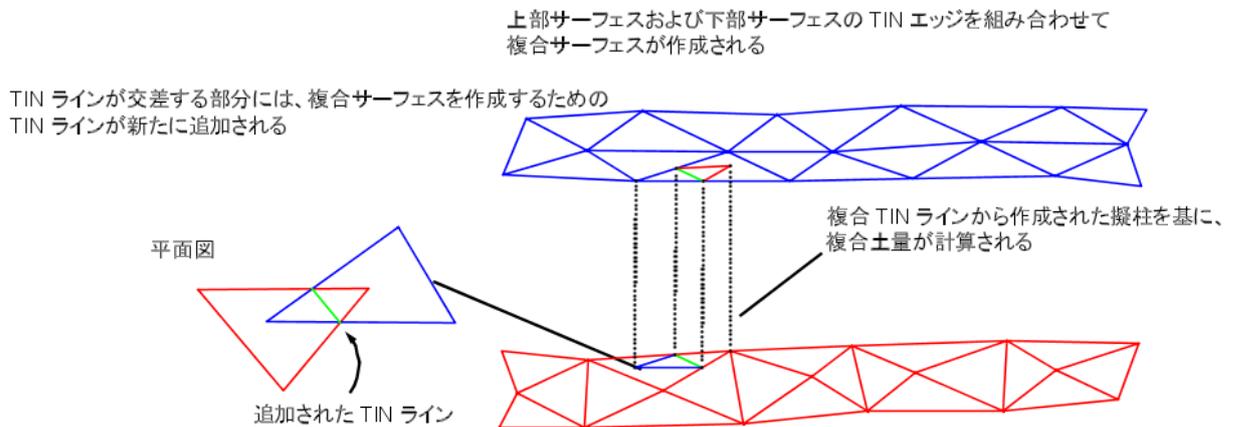
データとしてTINからなる面データを作成したうえで、ある一定の標高値にてDL面（標高基準面）を設定し、各TINの水平投影面積と、TINを構成する各点からDL面までの高低差の平均（平均高低差）を乗じた体積を総和する。

なお、TINとは Triangular Irregular Network の略。TINは、標高データを補間する最も一般的なデジタルデータ構造である。TINは、多くの点を3次元上の直線で繋いで三角形の頂点の組合せで面（サーフェス）を形成する。



c) プリズモイダル法

現況地形や出来形計測結果等（出来形計測データ、起工測量計測データ）からそれぞれの面データとしてT I Nからなる面データを作成し、面データのポイントの位置を互いの面データに投影する。次に各面データから、本来の自身が持つポイントと相手のポイントを合わせたポイント位置により新たな三角網を形成し、この三角網の結節点の位置での標高差に基づき複合した面データの標高を計算する。面データの各T I Nを構成する点をそれぞれの面データに投影すると、各面データに同じ水平位置で標高の異なる点を作成されるので、その作成された点で再度面データを構築し、三角形水平面積と高低差を乗じた体積を総和する。



d) その他算出結果について結果を確認できるもの

## 1.3 アスファルト舗装工

### 1. 適用

アスファルト舗装工における基層・中間層・表層及び縁石工におけるアスカーブに適用する。なお、アスファルト混合物が現地プラント方式の場合、アスファルト混合物の締固め後密度が1.90t/m<sup>3</sup>未満、2.50t/m<sup>3</sup>以上の場合を除く。

### 2. 数量算出項目

車道・路肩部、歩道部の別に基層、中間層、表層の面積を、アスカーブの延長をそれぞれ区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

### 3. 区分

区分は、基層・中間層・表層1層当りは平均仕上り厚、平均幅員、規格、瀝青材料種類とし、アスカーブは断面積、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

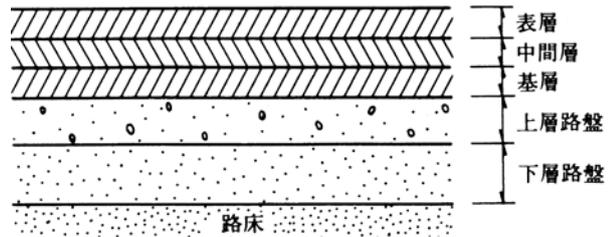
項目	区分	1層当り平均仕上り厚 (mm)	平均幅員	断面積	規格 (材料)	瀝青材料種類	単位	数量	備考
	基層（車道・路肩部）	○	○	—	○	○	m <sup>2</sup>		
	中間層（車道・路肩部）	○	○	—	○	○	m <sup>2</sup>		
	表層（車道・路肩部）	○	○	—	○	○	m <sup>2</sup>		
	基層（歩道部）	○	○	—	○	○	m <sup>2</sup>		
	中間層（歩道部）	○	○	—	○	○	m <sup>2</sup>		
	表層（歩道部）	○	○	—	○	○	m <sup>2</sup>		
	アスカーブ	—	—	○	○	—	m		

(2) 1層当り平均仕上り厚及び規格・瀝青材料種類区分

舗装の厚さ及び材料の規格（再生密粒 As13、再生粗粒 As20、再生 As 安定処理路盤等）、瀝青材料種類（タックコート、プライムコート等）ごとに区分して算出する。

材料の規格は締固め後密度も示す。

(アスファルト舗装の構成例)



(3) 平均幅員区分

平均幅員による区分は、下記のとおりとする。

- ①1.4m 未満
- ②1.4m 以上

## 1.4 半たわみ性(コンポジット)舗装工

### 1. 適用

開粒度タイプ加熱アスファルト混合物を舗設後、セメントミルクを浸透させる半たわみ性舗装工及び半たわみ性コンポジット舗装工におけるセメントミルク浸透に適用する。  
 なお、アスファルト混合物の舗設はアスファルト舗装工を適用する。

### 2. 数量算出項目

セメントミルク浸透の数量を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、施工厚さ、浸透用セメントミルク種類とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	施工厚さ	浸透用セメント ミルク種類	単位	数量	備考
セメントミルク浸透	○	○	m <sup>2</sup>		

#### (2) 施工厚さによる区分は、以下のとおりとする。

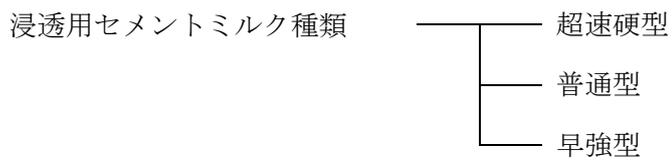
施工厚さ	25mm以上35mm未満
	35mm以上45mm未満
	45mm以上55mm未満
	55mm以上65mm未満
	65mm以上75mm未満
	75mm以上85mm未満
	85mm以上95mm未満
	95mm以上100mm未満

浸透用セメントミルクの使用量

(100m<sup>2</sup>当り)

施工厚さ	単位	使用量
25mm 以上 35mm 未満	ℓ	630～882
35mm 以上 45mm 未満	〃	882～1,134
45mm 以上 55mm 未満	〃	1,134～1,386
55mm 以上 65mm 未満	〃	1,386～1,638
65mm 以上 75mm 未満	〃	1,638～1,890
75mm 以上 85mm 未満	〃	1,890～2,142
85mm 以上 95mm 未満	〃	2,142～2,394
95mm 以上 100mm 以下	〃	2,394～2,520

(3) 浸透用セメントミルク種類による区分は、以下のとおりとする。



関連数量算出項目

項目	単位	数量	備考
表層（車道、路肩部）	m <sup>2</sup>		「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」参照

#### 4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

## 1.5 コンクリート舗装工

### 1. 適用

コンクリート舗装工（連続鉄筋コンクリート舗装工・転圧コンクリート舗装工は除く。）に適用する。

### 2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地、横目地の数量を区分ごとに算出する。  
 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、施工方法とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

##### 1) コンクリート舗装

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
コンクリート舗装		○	○	○	○	m <sup>2</sup>		
鉄網	○			m <sup>2</sup>			舗装100m <sup>2</sup> 当たり	
鉄筋鉄網	○			t			〃	
補強鉄筋	○			t			〃	

##### 2) 縦目地

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
タイバー		○	○	○	○	本		目地1000m当たり
ねじ付タイバー	○			本			〃	
クロスバー	○			kg			〃	
チェアー	○			個			〃	
目地板	○			m <sup>2</sup>			〃	
注入目地材	○			kg			〃	
シール材	○			kg			〃	
木材又はL型プラスチック材	○			m			〃	

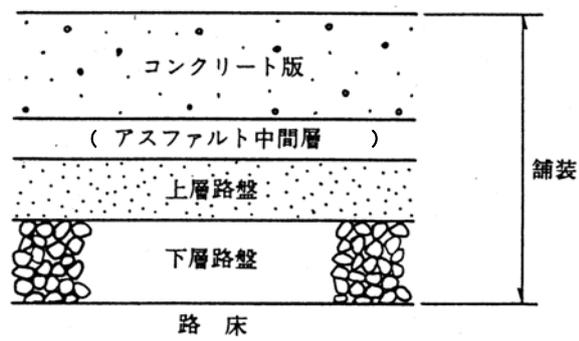
##### 3) 横目地

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	施工方法	単位	数量	備考
スリップバー		○	○	○	○	本		目地1000m当たり
キャップ付スリップバー	○			本			〃	
クロスバー	○			kg			〃	
チェアー	○			個			〃	
目地板	○			m <sup>2</sup>			〃	
注入目地材	○			kg			〃	

(2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(コンクリート舗装の構成)



(3) 施工方法区分

施工方法による区分は、下表のとおりとする。

施工方法	
機械施工	① 1車線施工
	② 2車線施工
人力施工	

## 1.6 転圧コンクリート舗装工

### 1. 適用

転圧コンクリート舗装工（RCCP）に適用する。

### 2. 数量算出項目

転圧コンクリート舗装の面積を区分ごとに算出する。  
 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格、作業とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

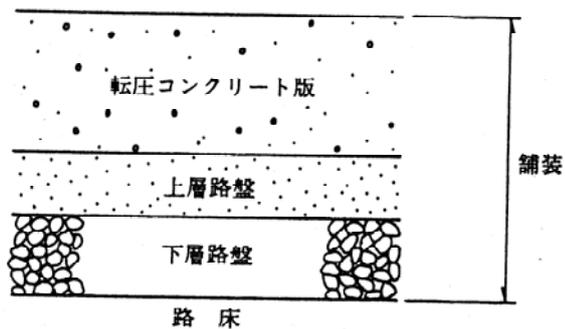
区分 項目	施工 箇所	舗装厚	規格 (材料)	作業	単位	数量	備考
転圧コン クリート舗装	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		

注) 1. 型枠が必要な場合は設置延長（m）を算出する。

#### (2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

（RCCP舗装の構成）



## 1.7 連続鉄筋コンクリート舗装工

### 1. 適用

連続鉄筋コンクリート舗装工に適用する。

### 2. 数量算出項目

コンクリート舗装、縦目地の数量を区分ごとに算出する。  
 なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2 路盤工」に、アスファルト中間層の数量は、「第3編（道路編）1.3 アスファルト舗装工」により算出する。

### 3. 区分

区分は、施工箇所、舗装厚、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

##### 1) コンクリート舗装

項目	区分	施工箇所	舗装厚	規格(材料)	単位	数量	備考
コンクリート舗装 鉄筋		○	○	○	m <sup>2</sup>		
				○	t		舗装100m <sup>2</sup> 当り

##### 2) 縦目地

縦目地については、「第3編（道路編）1.5 コンクリート舗装工」によるものとする。

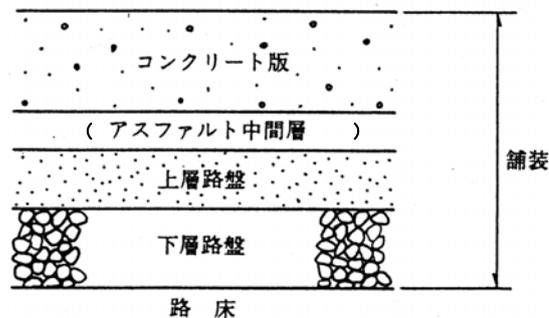
##### 3) 横目地

横目地については、必要に応じて「第3編（道路編）1.5 コンクリート舗装工」によるものとする。

#### (2) 施工箇所区分

本線、副道、歩道等の施工箇所ごとに区分して算出する。

(連続鉄筋コンクリート舗装の構成)



## 1.8 排水性アスファルト舗装工

### 1. 適用

車道における排水性アスファルト舗装工事に適用する。  
 なお、平均施工幅員が1.4m未満の場合において、1層当り平均仕上り厚が50mmを超える場合、平均施工幅員が2.4m以上の場合において、1層当り平均仕上り厚が65mm以上の場合を除く。

### 2. 数量算出項目

排水性アスファルト舗装面積、導水パイプ延長を区分ごとに算出する。面積＝本線＋すりつけ部＋非常駐車帯を算出する。

### 3. 区分

区分は、平均施工幅員、1層当り平均仕上り厚、導水パイプの設置の有無、片側車線数、規格、瀝青材料の規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	平均施工幅員	1層当り平均仕上り厚(mm)	導水パイプの設置の有無	片側車線数	規格(材料)	瀝青材料の規格	単位	数量	備考
排水性舗装・表層(車道・路肩部)	○	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>		
導水パイプ		—			○		m		平均施工幅員1.4m未満

### (2) 平均施工幅員

平均施工幅員による区分は、下記のとおりとする。

- ① 1.4m未満
- ② 2.4m以上

### (3) 規格区分

材料の規格を示すとともに、締固め後密度も示す。

## 1.9 透水性アスファルト舗装工

### 1. 適用

歩道における透水性アスファルト舗装工に適用する。

### 2. 数量算出項目

フィルター層面積、透水性アスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。  
なお、路盤の数量は、「第3編（道路編）1.2路盤工」により算出する。

### 3. 区分

区分は、平均幅員、1層当り平均仕上り厚、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格(材料)	平均幅員	1層当り平均仕上り厚	単位	数量	備考
フィルター層	○		○	m <sup>2</sup>		
透水性アスファルト舗装	○	○	○	m <sup>2</sup>		

#### (2) 規格区分

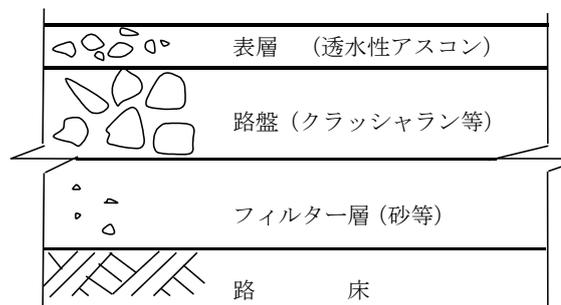
材料の規格を示すとともに、空隙率（フィルター層は除く）、締固め後密度も示す。

#### (3) 平均幅員区分

透水性アスファルト舗装の平均幅員（W）による区分は、下記のとおりとする。

- ①  $W \geq 1.4\text{m}$
- ②  $W < 1.4\text{m}$

(透水性アスファルト舗装の構成例)



## 1.10 グースアスファルト舗装工

### 1. 適用

グースアスファルト舗装に適用する。

### 2. 数量算出項目

グースアスファルト舗装面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、舗装厚、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	舗装厚	規格	単位	数量	備考
グースアスファルト舗装	○	○	m <sup>2</sup>		
プレコート砕石	—	○	kg		
目地材	—	○	m		

#### (2) 舗装厚区分

グースアスファルト舗装面積を舗装厚ごとに区分して算出する。

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) プレコート砕石・目地材の数量は、グースアスファルト舗装100m<sup>2</sup>当り必要量を算出する。

## 1.11 薄層カラー舗装工

### 1. 適用

薄層カラー舗装工に適用する。

### 2. 数量算出項目

薄層カラー舗装面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格・舗装厚とする。

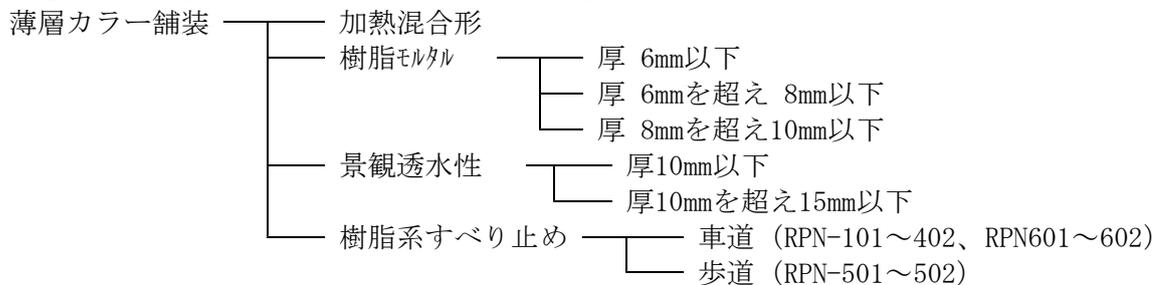
#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格・舗装厚	単位	数量	備考
薄層カラー舗装	○	m <sup>2</sup>		

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

#### (1) 薄層カラー舗装は以下の区分により算出する。



- (注) 1. 樹脂系すべり止め舗装の区分は、規格・仕様別に区分して算出する。  
 2. 樹脂モルタルについては、一般部と階段ステップ部に区分して算出する。

#### (2) 加熱混合形薄層カラー舗装は、「第3編（道路編）1章舗装工 1.3アスファルト舗装工」による。

## 1.12 橋面防水工

### 1. 適用

シート系防水（アスファルト系）、塗膜系防水（アスファルト系）による橋面の防水工に適用する。

### 2. 数量算出項目

施工面積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、規格とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考
橋面防水	○	m <sup>2</sup>		
ドレーン材	○	m		防水100m <sup>2</sup> 当たり
目地材	○	m		〃

#### (2) 規格区分

シート系防水及び塗膜系防水ごとに区分して算出する。

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 施工面積には、端部処理の立上り面積は含めない。

## 1.13 踏掛版工

### 1. 適用

厚さ0.35m以上0.6m以下の現場打ちの踏掛版の設置に適用する。  
ただし、主たる鉄筋が太径鉄筋（D38以上D51以下）の場合には適用しない。

### 2. 数量算出項目

コンクリート体積を区分ごとに算出する。

### 3. 区分

区分は、コンクリート規格、鉄筋量、ゴム支承の有無、鉄筋材料規格・径とする。

#### (1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	コンクリート規格	鉄筋量	ゴム支承の有無	鉄筋材料規格・径	単位	数量	備考
踏掛版		○	○	○	○	m <sup>3</sup>		

- 注) 1. アンカーボルトは踏掛版受台にて施工されるため含まない。  
2. 鉄筋量は、踏掛版1箇所当りの鉄筋量とする（スパイラル筋は含まない）。  
3. 路盤材の敷設は含まない。  
4. コンクリートのロスを含む。

#### (2) 鉄筋量区分

- ①0.08t/m<sup>3</sup>以上0.10t/m<sup>3</sup>未満
- ②0.10t/m<sup>3</sup>以上0.12t/m<sup>3</sup>未満
- ③0.12t/m<sup>3</sup>以上0.14t/m<sup>3</sup>未満
- ④0.14t/m<sup>3</sup>以上0.16t/m<sup>3</sup>未満
- ⑤0.16t/m<sup>3</sup>以上0.18t/m<sup>3</sup>未満
- ⑥0.18t/m<sup>3</sup>以上0.20t/m<sup>3</sup>未満
- ⑦0.20t/m<sup>3</sup>以上0.22t/m<sup>3</sup>未満
- ⑧0.22t/m<sup>3</sup>以上0.24t/m<sup>3</sup>未満
- ⑨0.24t/m<sup>3</sup>以上0.26t/m<sup>3</sup>未満
- ⑩0.26t/m<sup>3</sup>以上0.28t/m<sup>3</sup>未満
- ⑪0.28t/m<sup>3</sup>以上0.30t/m<sup>3</sup>未満
- ⑫0.30t/m<sup>3</sup>以上0.32t/m<sup>3</sup>未満
- ⑬0.32t/m<sup>3</sup>以上0.34t/m<sup>3</sup>未満

### 4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

- (1) 作業土工は、「第1編（共通編）2章土工」によるものとする。